

渥美半島に漂着したオウムガイ

西 浩孝*

Record of *Nautilus pompilius* (Cephalopoda: Nautilidae) drifted ashore of the coast
of the Atsumi Peninsula, Aichi Prefecture, central Japan

Hirotaka Nishi*

はじめに

渥美半島の南側には表浜と呼ばれる海岸が続いている。表浜には黒潮によって南方から運ばれてきた漂着物が打ち上げられることがある。島崎藤村の「椰子の実」は、柳田國男が伊良湖岬の恋路が浜において椰子の実を拾った話をもとに創作されたとされているが（中西，1990），その後の検証実験が行われ，2001年及び2012年には石垣島沖から流した椰子の実が渥美半島に流れ着いた（2012年7月20日東愛知新聞）。また，表浜にはココヤシ *Cocos nucifera* やニッパヤシ *Nypa fruticans*，ゴバンノアシ *Barringtonia asiatica* の果実，モダマ *Entada phaseoloides* やホウガンヒルギ *Xylocarpus granatum* の種子など熱帯植物の散布体が漂着する（中西，1990）。

筆者は表浜において，オウムガイ *Nautilus pompilius* Linnaeus, 1758 の殻を採集したので報告する。

記 録

採集日：2012年8月12日

産地：愛知県田原市百々海岸^{どうどう}

採集者：西 浩孝

残存部の最大径：117.9 mm

当日の満潮線の，海藻などの漂着物が打ち上げられている帯の中に漂着していた（第1図）。住房部は大

きく欠損しているが，残存部の殻表面には比較的鮮明な火炎模様が残っている（第2図）。表面には9個体のエボシガイ *Lepas anatifera* Linnaeus, 1758 が付着していたほか，緑藻類に覆われていた。標本は豊橋市自然史博物館貝類標本（TMNH-MO-24694）として保管されている。

考 察

日本列島沿岸域におけるオウムガイの漂着記録は，南西諸島，九州，四国，紀伊半島，相模湾，伊豆半島，伊豆大島，茨城県，隠岐，能登が知られている（浜田，1965；石井，1981；倉持，2000；池田ほか，2006）。渥美半島での正式な記録はなく，ウェブ上では2011



第1図. 海岸に漂着したオウムガイ。

* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan.

原稿受付 2012年12月14日. Manuscript received Dec. 14, 2012.

原稿受理 2012年12月18日. Manuscript accepted Dec. 18, 2012.

キーワード：軟体動物，頭足類，渥美半島，漂着物。

Key words : Mollusca, Cephalopoda, Atsumi Peninsula, drifting objects.



第2図. オウムガイの標本。スケールバーは1 cm。

年9月に豊橋市西七根の海岸で見たという情報があるものの、採集されておらず、写真もないため確認ができない (<http://blogs.yahoo.co.jp/hopi519/64204654.html>)。

オウムガイは死後も殻が浮力を持つため、海流により本来の生息域より著しく離れた海域へ漂着することが知られている (Hamada, 1977 など)。しかし、オウムガイの殻は土産物や観賞用として大量に市場に流通しており、また近年はペットショップで飼育観賞用として生きた個体が販売されていることから、漂着したものの中に人為的に投棄されたものが含まれる可能性も指摘されている (浜田, 1965; 池田ほか, 2006)。今回採集されたオウムガイは、付着生物の状況から長期間海洋を浮遊していたものと考えられることから、海流によって本来の生息域から運ばれたものと推測される。

今回田原市百々海岸で発見された個体は、表面に緑藻が生育していたことなどから新たに漂着したものと考えられる。これらのオウムガイが漂着した時期、ベトナムやマレーシアのPETボトルが多数漂着した。さらに、8月13日には豊橋市寺沢町の表浜海岸にもオウムガイが漂着した (牧野伸一, 私信)。今回、2例連続してオウムガイが漂着したのは、オウムガイの生息域からの漂流物が渥美半島に漂着し易い海流だったと考えられる。また、2012年10月3日には田原市赤羽根海岸でオウムガイが発見された (濱口 茂, 私信)。この個体は真珠層の状況や砂に埋もれていたことから、砂に埋没していたものと考えられる。

謝 辞

オウムガイの漂着について情報をいただいた牧野伸一氏と濱口 茂氏に感謝申し上げます。

引用文献

- 浜田隆士, 1965. オウムガイ類の遺骸漂流. *Venus*, **24** (3): 181–199.
- Hamada, T., 1977. Distribution and some ecological barriers of modern *Nautilus* species. *Sci. Pap. Coll. Gen. Educ. Univ. Tokyo*, **27**: 89–102.
- 池田 等・倉持卓司・竹山 紘, 2006. 相模湾沿岸に漂着したオウムガイ. 神奈川自然史資料, (27): 87–88.
- 石井 忠, 1981. 11年ぶりに漂着したオウムガイ. ちりぼたん, **12** (2): 37–39.
- 倉持卓司, 2000. 奄美諸島, 喜界島に漂着したオウムガイ. 南紀生物, **42** (2): 153.
- 中西弘樹, 1990. 海流の贈り物—漂着物の生態学—. 平凡社, 東京, 254p.